

8

- 1【土】 市制施行120周年記念式典・記念講演会◎PLAT主ホール
- 2【日】 ブラヴィッシモ コンサート◎PLATアートスペース
- 7【金】 - 11【火・祝】 第79回中部日本高等学校演劇大会 愛知県大会◎PLAT主ホール
- 8【土】・9【日】 アル☆カンパニー『その後、火を焚いて踊ろう』◎PLATアートスペース
- 21【金】 プラットワンコインコンサート TIII「気炎万丈 一燃え上がる音楽の夜ー」◎PLATアートスペース
- 23【日】 AYAMI BALLET STUDIO 第4回発表会◎PLAT主ホール

9

- 3【木】 特撰落語会 桂宮治独演会◎PLAT主ホール
- 4【金】 プラットワンコインコンサート Resonants「シェトラウスに寄せて」◎PLATアートスペース
- 5【土】 森谷真理・上江隼人「二人のコンサート」◎PLAT主ホール
- 22【火・休】・23【水・祝】 穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース
舞台手話通訳付き公演『楽屋 - 流れ去るものはやがてなつかしき - 』◎PLATアートスペース
- 25【金】・26【土】 豊橋演劇鑑賞会 第316回例会 劇団1980『素劇椿山節考』◎PLAT主ホール
- 26【土】 2台で奏でる極上のPOPs&Classic◎PLATアートスペース

10

- 2【金】・3【土】 劇団「第五会議室」第10回公演『パーボットのかげら2026』◎PLATアートスペース
- 3【土】 リトアニア 現代オペラパフォーマンス『HAVE A GOOD DAY !』◎PLAT主ホール
- 4【日】 劇団四季ファミリーミュージカル『はじまりの樹の神話〜こをあとの森の物語〜』◎PLAT主ホール
- 16【金】 - 18【日】 PARCO PRODUCE 2026『アメリカン・ドリーム』◎PLAT主ホール
- 26【月】 立川志の輔 独演会 2026◎PLAT主ホール

PLAT NEWS



TOYOHASHI ARTS THEATRE

PLAT

表紙／舞台手話通訳付き公演
『楽屋 - 流れ去るものはやがてなつかしき - 』
撮影：伊藤華織
企画・発行／公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン／味岡伸太郎＋有限会社STAFF
令和8年7月発行78号[年4回発行]

PLAT NEWS

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2026年8月～10月

vol. 78



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

プラットニュース



Interview:1

穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース

舞台手話通訳付き公演

『楽屋 - 流れ去るものはやがてなつかしき - 』

舞台手話通訳者の肉体を通して言葉は表現に変化する。

樋口ミュ・廣川麻子

3

Interview:2

アル☆カンパニー『その後、火を焚いて踊ろう』

二人とも、情けなかったりする登場人物が好きなんです。

平田満・野田慈伸

5

Column:1

リトアニア 現代オペラパフォーマンス

『HAVE A GOOD DAY !』

フラットでミニマルな日常のオペラ

7

Foyer

プラット親子わくわくプログラム2026

夏休みは、プラットで思いきり“わくわく”しよう!

9

Information

PLAT 主催・共催公演情報

Ticket center

13

Report

市民と創造する演劇『赤鬼』

舞台手話通訳付きバージョン

上演も劇評もめざましい成果、市民との『赤鬼』

14

Sponsor

Support



舞台手話通訳者の肉体を通して言葉は表現に変化する。

本作演出の樋口ミュさんと、NPO 法人シアター・アクセシビリティネットワーク (TA-net) 理事長であり、ご自身もうろう者として文化芸術におけるアクセシビリティ研究の先駆者である廣川麻子さんを招き、「舞台手話通訳付き公演」について作り手視点からお話を伺った。

大橋—— 2021 年に PLAT 初の舞台手話通訳付き作品、リーディング公演『凜然グッドバイ』を TA-net と PLAT が共同制作し、作・演出を樋口さんが担当されました。お二人は『凜然…』以前からお知り合いだったのでしょうか？

樋口—— 2019 年に PLAT で実施された「舞台手話通訳養成講座」(主催: TA-net、共催: (公財)豊橋文化振興財団)の発表会を見に行ったので知っていました。廣川—— 発表会でご挨拶したのが『凜然…』に繋がっていききました。

大橋—— 舞台手話通訳付き公演についてお伺いできますか。

樋口—— 手話という言葉をもとにする皆さんに伝わるように通訳が付いている公演のことです。この「手話を母語とする」というのは私の中ですごく大事なことで、例えば私たちが海外の映画を見るときには日本語の通訳がないと分からないように、手話を母語とする人たちが分かるように通訳が入っている公演です。

廣川—— ろう者が見ても自然に内容が入ってくること、俳優の動きもきちんと見ることが出来るのが舞台手話通訳付き公演にとって大事だと思っています。

大橋—— 樋口さんには舞台手話通訳付き公演として 2022 年の『楽屋- 流れ去るものはやがてなつかしき』、2026 年 3 月の市民と創造する演劇『赤鬼』の演出も担っていただきました。舞台手話通訳付きで創作する際に意識していることはありますか。

樋口—— 最初に俳優と稽古をする時、まず舞台手話については考えず、手話通訳や手話監修に見てもらえるところまで作ります。私は手話の専門家ではないので、創作についての打ち合わせしかできないんです。聞こえる、聞こえないに関わらず何を一番大事に伝えたいかを話さないと通訳できないだろうから、他のテクニカルスタッフと同じ手順を踏んでいます。

9 月 22 日[火・休]14:00 開演・18:30 開演

9 月 23 日[水・祝]14:00 開演

作＝清水邦夫

演出＝樋口ミュ

出演＝ののあざみ、大浦千佳、服部容子、森寄未弓

舞台手話＝加藤真紀子、高田美香、水野里香

会場＝PLAT アートスペース

廣川—— 2021 年あたりから舞台手話通訳付き公演が全国各地で広まり、いろんな表現方法、在り方があって、それぞれユニークな形になっている。これまで樋口さんが演出した三作品は舞台手話の関わり、スタイルを少しずつ変えている。その試みもすごくいいし、興味深かったです。作品が表現したいことがはっきりしていて、その表現と舞台手話の在り方がマッチしているかどうかが大事だと思っています。

大橋—— 舞台手話が俳優と共に舞台上に立つスタイルにしたきっかけはあるのでしょうか。

樋口—— 最初の発表会のとき、廣川さんにいろんな海外の事例を見せてもらい、手話通訳が舞台脇にいないでもいい事を知った。そこから表現に広がりを持てました。初めの『凜然…』のときはまず同じ衣装を着て、同じ空間に存在することをやってみました。次の『楽屋』ではより一層物語の中に入るようにしたかった。それでも舞台手話の場所は固定されてしまった。そして『赤鬼』のときは「浜の人々」という民衆が存在したので、村人の一人として混じることができた。3 回ぐらいやらないとここまで混じっていいと分からなかった。

廣川—— 作品によりますよね。『楽屋』は出演者が 4 人。舞台手話が 3 人。並び方や動き方がとても洗練されていて、鏡の枠の使い方も面白いなと。『赤鬼』のときは人数が多かったのも、もし俳優と離れていたら分かりづらかったかもしれませんが、近くなりとても見やすいと感じました。あと手話の担当も決めていましたね。舞台手話の振り分けルールが理解しやすかったです。

大橋—— 廣川さんは『赤鬼』で鑑賞サポートの一つである字幕タブレットも利用していただきました。

廣川—— 日本語による劇なので日本語を知った上で手話を見ると、より理解が深まる。逆に字幕だけの場合、日本語はわかるけれども、音声による細かいニュアンス、言い方、スピード等は伝わりにくいです。スピードのある手話だったら日本語も早いとか、表情が付くことで内容がつかみやすくなります。

樋口—— 舞台手話通訳者の肉体を通して言葉は表現に変化する。文字が体温を持って話されていることは手話が一番伝わるなと思いました。

大橋—— 『楽屋』はどのような作品でしょうか。

樋口—— 劇場には楽屋がありますが、楽屋というのは表には出ない裏側。その裏側を舞台にすること、は、いつも見えていないところを見せるということです。そして『楽屋』には生きている俳優と死んでいる俳優が出てきて、見えない死者も舞台上に出す。生者と死者の観点からいくと、生者はマジョリティーであり、常に見えていない死者によって支えられている。さらに今回は死者にも見えない舞台手話がいる。私達は見えるものに反射的に反応してしまうけれども、そこには見えない裏側が膨大にあることを舞台手話通訳が付くことでより体感として伝わればいいなと思います。

大橋—— 4 年越しの再演で挑戦してみたいことはありますか。

樋口—— 私が初めて存在を知ることが出来たときから、今世の中で舞台手話通訳の表現がすごく広がっ

ている。舞台手話通訳に惹かれて、やる人が増えれば増えるほど結果的にそれを必要とする人たちの目に触れやすくなるけれども、広げていった先に、これは誰にとって必要かを戻していくフェーズに私は入っていると思います。面白いものをどうやって手話を母語とする人たちにもう 1 回返していけるかにフォーカスしないといけないんじゃないかなと。それを再演で試みたいと思っています。

廣川—— (拍手)

大橋—— 再演に向けて期待していることがあれば教えてください。

廣川—— 再演ということとさらにブラッシュアップされる部分はあると期待しています。また、一度見たからもういいやとおっしゃる方もいるかもしれませんが、繰り返し見ることで作品が育っていく楽しみもあることを知っていただきたいですね。

大橋—— 樋口さんからもメッセージをお願いいたします。

樋口—— まだ舞台手話通訳付き公演を見てないのであれば、1 回は絶対見た方がいいです。ろう者にとつての舞台手話通訳があるように、実は聴者にとつての舞台手話通訳があつて、情報量が違うんですよ。舞台手話は俳優が言っていることを増強してくれる。だからお芝居の楽しみ方が増えていくと思います。手話を母語とする人たちがたくさん見に来てくれたら本当に嬉しい。今は数が少ないかもしれないけれども、気長に続けていき舞台手話通訳付き公演が当たり前になっていけばいいなと思います。

樋口ミュ[ひぐち・みゆ]

劇作家・演出家。PlantM 主宰。劇団 Uglyduckling 旗揚げ以降、解散までの劇団公演 32 作品の戯曲を執筆する。劇団解散後は、座・高円寺の劇場創造アカデミー演出コースに編入し、佐藤信氏に師事。2012 年に PlantM を立ち上げる。大阪、東京とフットワーク軽く飛び回り各地で公演をしている。2011 年から 2021 年の 10 年間、3 月春分の日に東日本大震災のチャリティリーディングを行った。

廣川麻子

[ひろかわ・あさこ]
(社福)トット基金日本ろう者劇団。愛の輪基金ダスキン障害者リーダー育成海外派遣生(英国)。シアター・アクセシビリティ・ネットワーク (TA-net) 理事長。舞台をろう者・難聴者が楽しめるよう、情報アクセシビリティの意義を発信する。手話のまち 東京国際ろう芸術祭 2025 総合プロデューサー。東京大学先端科学技術研究センターユーザーリサーチャー(特任研究員)。



穂の国とよはし芸術劇場 PLAT プロデュース
舞台手話通訳付き公演

『**楽屋**』
—流れ去るものはやがてなつかしき—

楽屋にとどまり続ける 4 人の女優たち。
演じるとはなんであるか。役者とはなんであるか。

アル☆カンパニー

『その後、火を焚いて踊ろう』

家族3世代を描いた可笑しくもリアルな物語。

8月8日[土]・9日[日]14:30開演

作・演出＝野田慈伸

出演＝平田満、井上加奈子、浅野千鶴、片桐美穂、野田慈伸

会場＝PLAT アートスペース

Interview: 2

平田満

出演

野田慈伸

作・演出・出演

平田 満[ひらた・みつる]
早稲田大学在学中、「つかこうへい事務所」旗揚げに参加。1982年、映画『蒲田行進曲』で第6回日本アカデミー賞最優秀主演男優賞をはじめ多数の映画賞を受賞。06年企画プロデュース共同体「アル☆カンパニー」を立ち上げ、平田俊子、青木豪、桑原裕子、野田慈伸など時代を担う幅広い作家・演出家と様々な試みに取り組んでいる。また芸術文化アドバイザーを務めた穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース『荒れ野』では、企画、出演し、第5回ハヤカワ悲劇喜劇賞を受賞。

取材・文 小島祐未子

二人とも、情けなかつたりする登場人物が好きなんです。

2020年の『POPPY!!!』以来6年のお付き合いとなりましたね。

野田——僕は平田さんの息子さんより年下ですが、こんなに年の離れた後輩の意見も真摯に聞いてくださることに驚くというか、すごくありがたく感じています。何より、僕の作るものを面白がってくれるのがいちばん嬉しいですね。

平田——僕は年齢や性別、あるいは国籍…、そういうことは全然関係ないと考えていて、稽古に入ってしまうと誰にでも同じ態度で接します。だいたい二人ともヒエラルキーを求めるタイプじゃない。だからずっと仲良くさせていただいています。

野田——あと、情けなかつたりする登場人物が二人とも好きなんです。そういうところで意気投合できるのが、この6年間につながったのかなと思います。

2024年に「パタカラぷろじえくと」を始動させ、本作の元となる短編のリーディングを行った経緯を教えてください。

平田——アル☆カンパニーは僕と井上加奈子の二人しかいないんですよね。二人で始め、二人でいろんな人に声をかけてやってきた。昨年20周年を迎えましたが、年齢的にも考えることが増えています。僕らは体力が落ちてきているし、演劇的・文化的な経済状況や環境の変化も著しい。だから『POPPY』の再演まではとてもうまくいって良かったんですけど、また作品を0から立ち上げるのは大変だなと。そんなおり、ニュー・サンナイという小さなバーで知り合いが無料のリーディングをやるというので出掛けたんです。その公演は無料でやる意味があると感じた一方で、この形だったら経費や労力を抑えられるとも考えました。そこで信頼している野田さんに、短くていいのでお願いして台本を書いていただいたんです。

野田——最初は短編2本ということもあり、面白いなと思ってお引き受けしました。それから半年後に3本目ができて一旦完結します。

平田——そうしたら「これ、舞台でできるね」という話になって…。低予算でやればなんとかなるんじゃないか、「夢よ、もう一度」というわけです。『POPPY』で終わりでよかったかもしれないけど、やっぱりリーディング公演が面白かったんですよね。それでキャストやスタッフに相談したところ、みなさん「やりましょう」と言ってくれたんです。

野田——僕はリーディングに関わったことがなかったんですが、とても楽しかったんですよね。観客もかなり喜んでくださっているようでした。リーディングは観客の想像力に頼る部分が強く、演技の上手な俳優がやるとすぐ空間が広がるんです。観客それぞれに広がることを発見できたのも面白い体験でした。今回、演劇に進化させるにあたってリーディング用に書

いた台本を加筆・再構成していますが、それもまた新しい挑戦なので楽しくやらせてもらっています。

平田さん、井上さん、浅野千鶴さん、片桐美穂さんはリーディング同様、かずき、祖母グミ、グミの長女・藍子、次女・ユキコの役で、野田さんがユキコの夫・てうがという配役ですね。戯曲を読むとちよつと困った人ばかりで、生々しく感じました。

野田——リーディングでは終演後に観客と話をするアフター対話があったんですが、そこで「私の家族を見ているみたい」といった声をたくさんいただきました。終活の話題が出た時には「うちの場合はこうしました」「それ、いいですね」みたいな会話が交わされ、一般的な演劇のアフタートークでは絶対ないような時間で本当に豊かでした。みなさん、思い当たる節があるようです。僕自身の経験が反映されているところもありますよ。僕の家族は仲が悪くはないんですけど、そこまで親密でもなく、距離感がちよつと“遠め”なんです。それが登場人物たちに影響しているのかなと。僕は劇団の作品にも家族の話が多いんですが、理由を考えると寂しいからだと思うんです。よく言われるような理想的な家族ではなかったけど、逆にすごく悪い関係性でもなく、その距離感を常に意識して寂しかったのかなと。子どもの頃は食卓で僕しかしゃべっていないことがあって、僕が家族の間を取り持つみたいな感じでした。だから家族というものに対して「実はこういうことを考えていたのかな」とか「こうだったらいいな、こうだったらイヤだな」とか想像して書いているのかもしれない。

かずき君の人物像にも通じますね。平田さんは、かずき役をすんなり演じられましたか。

平田——実は、最初に見た桃尻犬の芝居で大人の俳優が子ども役をやっていたんです。それがとても面白くて、いいなと。どうしても僕らの年代って役に制約があり過ぎる。それで僕から「子どもの役をやってもいい」と言っただけです。実際、観客も設定さえわかれば物語を素直に受け入れてくださいました。

野田——演劇になっても、最初は平田さんだと思って観るでしょうけど、物語が進んでいけば子どもとして観てくれるはず。そのためには、子ども役であることをあまり狙い過ぎないのが大事なかと。

平田——今回は視覚の面でうまくいけば、ある意味、多面的・重層的な舞台になると思うんですよ。年寄りが子どもを演じますが、どんな人になっても子ども時代はあった。だから逆にイメージを固定できないような役づくりができればいいですね。

確かに、かずきもやがてグミの亡き夫の立場＝おじいちゃんになると言えますもんね。

野田——そういう時間の堆積みたいなもので観客に感じてもらえるよう芝居を作れたら、本当いいですね。

野田慈伸[のだ・しげのぶ]
1987年生まれ。脚本家・演出家・俳優。演劇団体「桃尻犬」主宰。劇団の演出に加え外部への作品提供も多数。その他、ドラマや映画の映像脚本を執筆。お笑い芸人との共作やコントの演出など多方面で活躍。2021年、2023年に平田満、井上加奈子両氏プロデュースのアル☆カンパニー「POPPY!!!」の作、演出を担当。

10人のレジ係が横に並び、 単調な言葉によるミニマルな合唱や電子音に ソロやピアノが加わっていく。

10月3日[土]14:00開演

コンセプト＝ヴァイヴァ・グライニテ、リナ・ラペリテ、
ルギーレ・バルズジュカイテ

台本＝ヴァイヴァ・グライニテ

作曲・音楽監督＝リナ・ラペリテ

演出・美術＝ルギーレ・バルズジュカイテ

会場＝PLAT 主ホール

リトアニア 現代オペラパフォーマンス

『HAVE A GOOD DAY!』



Column:

私はむかしドイツに住んでいたのですが、スーパーや薬局などで買い物を終えると、レジにいる店員さんがほぼ例外なく Schönen Tag noch!(引き続きよい1日を!)と言ってくれます。それに対してこちらも Danke, gleichfalls!(ありがとう、あなたも!)と返答します。ちなみに金曜日の午後や土曜日は、この挨拶が Schönes Wochenende!(よい週末を!)に変わります。(ドイツには閉店法という法律があり、日曜日と祝日はスーパーを含むあらゆる店舗を休みにしなくてはならないのです)

今年10月3日にリトアニアからPLATにやってくる『HAVE A GOOD DAY!』の作品タイトルは、スーパーでのこのような挨拶から取られています。(日本では買い物をしても、あまりこういう挨拶をしないので、日本語には翻訳しづらいタイトルです)この作品には「10人のレジ係、スーパーマーケットの音、ピアノのためのオペラ」という副題がついています。ヴァイヴァ・グライニテ(作家兼詩人)、リナ・ラペリテ(作曲家兼ミュージシャン)、ルギーレ・バルズジュカイテ(演出家兼舞台美術家)の女性3人組は、セルフレジやコード決済がまだそれほど浸透していなかった2013年に、この作品を「オペラ」として作りました。しかしこの作品は『カルメン』のように主役となるソリストが出演する豪

華絢爛なオペラではありません。一般的にイメージする「オペラ」とはやや異なるので、今回の日本公演では「現代オペラパフォーマンス」として紹介されます。作品理解の解像度を少しでも上げるために、この作品の特徴を「フラット」「ミニマル」「日常」という3つのキーワードから説明してみます。

レジ係を演じる10名の出演者は皆女性で、年代も様々です。(ドキュメンタリー作品ではないので、出演者は実際の店員というわけではありません)具体的な役名は与えられず「いつも品物を落としてしまう不器用な新人」「イギリスに住む息子とスカイプで話すために、シフトが終わるのが待ちきれない中年女性」「芸術系の学位を持つ若い女性」といった役柄がそれぞれに与えられています。出演者のなかに序列はなく、10人がフラットな関係です。「ポストドラマ演劇」という考え方を提唱した演劇学者のハンス＝ティース・レーマンは、その原則の1つ目として「演劇手段の脱序列化」を挙げていますが、『HAVE A GOOD DAY!』は作品のコンセプトにおいて、この脱序列化＝フラットさが実現されています。その特徴は、同じ椅子が舞台上にずらりと並列されている舞台美術のデザインにも現れています。

椅子に座った10人のレジ係は商品を読み取るバーコードリーダーを手に持っています。上演がはじまると彼女たちは手に持っているバーコードを読み取り、そのリーダーの音が会場内にピコピコと鳴り響きます。すると1人のレジ係が子守歌を歌い始め、続いて10名

のレジ係全員での「HAVE A GOOD DAY!」コーラスとなります。(指揮者がいないのに、息ピッタリで歌われるコーラスには注目です!)をしてそれぞれのアリアへと続いていきます。本作をニューヨークで観劇した音楽批評家のアレックス・ロスは、その音楽を「初期のフィリップ・グラスのような感傷を排したミニマリズムと、民謡風のメロディの気配を兼ね備えている」と評しています。ミニマル・ミュージックとは短いフレーズが反復する機械的なスタイルの音楽のことですが、『HAVE A GOOD DAY!』はこのミニマルさとオペラの形式が融合した、音楽的にも珍しい作品です。スーパーの店員が日々抱える悩みやルーティンを表現するときに、ミニマルさは恰好の音楽形式であるといえます。

レジ係が歌うアリアの中には「新人のアリア」や「シングルマザーのアリア」と題されたものがあります。演劇やオペラにおいてコーラス(かつてはコロスと呼ばれていました)は観客を圧倒する強い声として用いられていましたが、現代的な作品ではむしろ社会的に苦しい立場にいる弱き者たちの声の表現としても使われます。この作品の中に大きなストーリーは存在せず、10名のレジ係が語る内容はどれも個人的で日常的なものです。個人が抱える小さな日常がそのまま呈示される作品です。

いまや私たちの日々の生活はバーコードで溢れています。買い物で会計するときも、劇場や映画館に入場するときも、そこにはバーコードがあります。その結果、店員の方との会話は生まれづらくなり、人間同士のコミュニケーションは少しずつ無くなっていきます。圧倒的な作品を観た後は、劇場から外に出たときに日常の景色が変わって見えてしまうようなことが起こりますが、『HAVE A GOOD DAY!』を観た後の観客に、そのような大胆な変化は起きないかもしれません。このフラットでミニマルな日常のオペラは、私たちが失いがちなコミュニケーションの大切さを思い出させてくれるでしょう。もしかすると観劇した後のあなたは、地元のスーパーのレジで「ありがとう、あなたも良い一日を!」と返答しているかもしれません。

ヴァイヴァ・グライニテ

作詞／1984年生まれ、リトアニア拠点
テキストをベースに、ジャンルを横断する演劇作品や出版活動を展開している。作家、劇作家、詩人。詩的な解釈を通して日常的な社会問題を逆説的かつ異化的なものへと変換する。

リナ・ラペリテ

作曲／1984年生まれ、リトアニア拠点
音楽をベースとし、ポップカルチャーやジェンダー・ステレオタイプ、ノスタルジーと戯れる。彼女の作品は、歌を中心とした集団的で感情に訴えるパフォーマンスを特徴とし、訓練を受けた／受けていない出演者を巻き込みながら、脆さや沈黙の問題を問い直す。

ルギーレ・バルズジュカイテ

演出／1983年生まれ、リトアニア拠点
フィルムメーカー、舞台演出、ビジュアル・アーティスト。遊戯的な方法で人間中心的な思考を揺さぶりながら、現実を異なる角度から照らし出す。

フラットでミニマルな日常のオペラ

文 横堀応彦
by CHANTEL
ドラマツルク、舞台芸術研究者

プラット親子あくあくプログラム2026

夏休みは、プラットで思いきり“わくわく”しよう！

アクロバットや演劇、ダンスに音楽…子どもたちの「やってみたい!」「見てみたい!」が広がるプログラムをたっぷりご用意しました。

親子で一緒に体験したり、初めての舞台に挑戦したり、心が動く夏の思い出をつくりに来ませんか。

この夏おすすめのイベントを一挙にご紹介します。

申込方法など詳細は巻末のインフォメーションあるいは劇場ホームページをご確認ください！

Foyer



『ノルム -ふたりのバランス-』

10歳以上
推奨

7月25日【土】15:00開演

7月26日【日】13:00開演

「当たり前」にちょっと待った!強さと優しさにあふれたアクロバットステージ。

ふたりのサーカスアーティストが、ささえたり、持ちあげたり、役わりを入れかえながら、いっしょにバランスを見つけていくサーカス作品です。身体の大きさや性別で「つよい人」「ささえ人」を決めつけず、ときにはぶつかり、ときには助け合いながら、どうしたらフェアで、仲良くいられるかをからだいっぱいに表現します。セリフはほとんどありません。ジャンプやリフト、ダンスや組体操のようなアクロパティックな動きで自由を表現する子どもも大人も、見て感じて楽しめる作品です。

会場=PLAT アートスペース

演出・出演=

アガット・ビセリエ アドリアン・マレット=シェニエ

関連企画 アクロバット入門

7月25日【土】17:00～18:30

アガット&アドリアンによる小学生対象のワークショップ。サーカスの技のひとつ、リフトの基礎を知り「フライヤー」と「ベース」両方の役割を体験します。組体操や身体を動かすことが好き、またはサーカスに興味のあるお子様におすすめです！

会場=PLAT 創造活動室A

講師=

アガット・ビセリエ アドリアン・マレット=シェニエ

じょこピ〜 こども劇場ダンスワークショップ

7月29日【水】 ①10:30～11:30《年少児～年長児と保護者》

②13:30～15:15《小学生》

劇場の広い舞台を使って、思いきりカラダと音楽であそぼう！

学校でたくさん子どもたちとダンスワークショップをおこなってきたアーティスト・じょこピ〜(城俊彦)と民族楽器やアイディア楽器などを用いる風景音楽家・ミウラ1号が登場!生演奏にのせて、一緒にカラダを動かそう!障がいや特性のある子ども大歓迎、ダンスの経験は一切不要です。

会場=PLAT 主ホール舞台上

講師=城俊彦、ミウラ1号

年少児
～小学生
向け



0歳からのコンサート 「音楽とでかけよう ～ピアノで描くものがたり～」

0歳～
親子向け

7月30日【木】10:30開演

爽やかなキラキラの音に誘われて、いざ音楽の世界へ！

赤ちゃんから皆で楽しめるクラシックコンサート。プラットワンコインコンサートにも出演した豊橋市出身のピアニスト・白井那奈が、「きらきら星変奏曲」など聴きなじみのある名曲をお届けします。動いても、泣いても喋っても大丈夫!想像力を刺激する、お話し仕立ての音楽の世界に出かけよう！

会場=PLAT アートスペース

出演=白井那奈



ワークショップ縁日

8月30日【日】10:00～17:00

プラットならではの夏の縁日！

カラダを使ったゲームや工作、こどもが作った作品展示など、楽しい企画が盛りたくさん!夏休み最後の週末は、みんなといっしょに劇場まどとつかって遊んじゃおう！

会場=PLAT 創造活動室A ほか

小学生
向け



出張!ここにこ 工作スペシャル 「森のブレスレットを作ろう」

年少児～
親子向け



7月30日【木】9:30～12:30(入退室自由)

布地で出来た葉っぱをペタペタ貼って、ブレスレットづくりをしてみよう。

完成したブレスレットを身に着けて、ぜひ「0歳からのコンサート」にも参加してみてね!こども未来館ここにこで人気の「体験セット」貸し出しもあるよ！

会場=PLAT 創造活動室D

夏休み! 劇場おしごと体験ツアー 2026

8月19日【水】13:00～15:00

劇場のスタッフと一緒に仕事を体験しながら、演劇をつくってみよう！

短い台本に書いてあるキッカケに合わせながら、舞台・照明・音響のスタッフのお仕事を順番に体験できます。今回おしごととする劇は『演劇 豊橋妖怪百物語』です。お楽しみに！

会場=PLAT 主ホール

作=内浦有美(ばったり堂)

演出=すずきこた

講師=PLAT 劇場スタッフ

小学生
向け



PLAT 主催・共催公演情報

プラット親子
わくわくプログラム2026
アガット&アドリアン
『ノ・ルムーふたりのバランスー』

7/25 [土] 15:00 開演 **好評発売中**
7/26 [日] 13:00 開演

カナダのケベック州を拠点に活動するアガット&アドリアンによる『ノ・ルム』は、ダンスを巧みに融合させたパワフルでコミカルなアクロバットとストーリーテリングの要素を織り交ぜた魅力的なステージ。ハンド・トゥ・ハンドやイカリアン・ゲームといったサーカス技術を駆使し、迫力あるパフォーマンスを披露します。

会場＝PLAT アートスペース
演出・出演＝アガット&アドリアン
料金＝[全席指定]おとな3,000円、こども1,000円 ほか



【関連企画】ワークショップ
アクロバット入門

7/25 [土] 17:00 ～ 18:30
サーカスの技を紹介し、体験します。初心者でも参加可能。
会場＝PLAT 創造活動室A
講師＝アガット・ピセリエ、アドリアン・マレット＝シニエ
対象＝7/25、26公演チケットをお持ちの小学生
定員＝15名程度
参加費＝無料
申込方法＝劇場ホームページの専用申込フォームより

プラット親子わくわくプログラム2026
0歳からのコンサート
「音楽とでかけよう
～ピアノで描くものがたり～」

7/30 [木] 10:30 開演
小さなお子さまからみんなで楽しめるコンサート。「きらきら星変奏曲」など聴きなじみのあるクラシック曲を演奏します。50分間のコンサート、出入り自由です。
会場＝PLAT アートスペース
出演＝白井那奈[ピアノ]
料金＝18歳以下 無料、19歳以上500円
※事前申し込み不要
※定員80名(当日先着順)

SELECT 4 マイセレクト4 対象公演

託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンター・劇場ホームページまで



ポータブル字幕機貸出対象公演
聴覚に障がいのあるお客様のためのポータブル字幕機の貸出あり【要事前予約】



舞台説明会対象公演
視覚に障がいのあるお客様のための舞台説明会あり【要事前予約】

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
プロデュース

舞台手話通訳付き公演

『楽屋

- 流れ去るものはやがてなつかしき -』

9/22 [火・休] 14:00 開演／18:30 開演
9/23 [水・祝] 14:00 開演

女優4人の楽屋での会話により描かれる清水邦夫の名言を、舞台手話通訳付きで上演します。
会員先行＝7月11日(土)
一般発売＝7月25日(土)
会場＝PLAT アートスペース
作＝清水邦夫
演出＝樋口ミユ
音楽＝安間誉和
手話監修＝河合メアリ
出演＝ののあさみ、大浦千佳、服部容子、森崙未弓
舞台手話＝加藤真紀子、高田美香、水野里香
料金＝[全席指定]一般4,500円 ほか
※22日(火・休)18:00の回終演後トークあり



リトアニア 現代オペラパフォーマンス
『HAVE A GOOD DAY ! 』

10/3 [土] 14:00 開演

リトアニア招聘の現代オペラ作品。10人のレジ係が横に並び、単調な言葉によるミニマルな合唱や電子音にソロやピアノが加わっていく。ありふれた日常の風景に潜む危うさがアート作品として描き出されます。
上演言語＝リトアニア語(日本語・英語字幕あり)
会員先行＝7月4日(土)
一般発売＝7月18日(土)
会場＝PLAT 主ホール
コンセプト＝ヴァイヴァ・グライニテ、リナ・ラベリテ、ルギーレ・バルズジュカITE
台本＝ヴァイヴァ・グライニテ
作曲・音楽監督＝リナ・ラベリテ
演出・美術＝ルギーレ・バルズジュカITE
料金＝[全席指定]一般6,000円 ほか



©Modestas Endriuska

Pick up

スリーゴースト

世界で活躍を続ける劇作家サイモン・ステューヴンスが、数年後の世界をテーマに新作戯曲を書き下ろし。6年にわたる準備を経てついに世界初演。名実ともに日本を代表する俳優・堺雅人を主演に迎えた実力派俳優陣も見逃せません。

11/27 [金] 18:00 開演

11/28 [土] 13:00 開演／18:00 開演

11/29 [日] 13:00 開演

会員先行＝WEB抽選のみ。
会員抽選＝8/18(火)～8/29(土)まで。
※申込方法詳細はホームページで確認ください。
一般発売＝9/26(土)

会場＝PLAT 主ホール
作＝サイモン・ステューヴンス
翻訳＝広田敦郎
演出＝ショーン・ホームズ
出演＝堺雅人、倉科カナ、伊勢佳世、迫田孝也、sara、小日向星一／高畑淳子、段田安則
料金＝[全席指定]S席12,500円、A席9,500円 ほか
※一般発売初日は、お一人様一申込につき1公演2枚までの枚数制限あり



11月28日
13:00



劇団四季ファミリーミュージカル

共催

『はじまりの樹の神話～こそあどの森の物語～』

10/4 [日] 16:00 開演

こそあどの森で暮らす主人公・スキッパーと大昔から来た少女・ハシバミの交流を通して、人と人とのつながりの大切さを描く、劇団四季のファミリーミュージカルです。
会員先行＝7月26日(日)
一般発売＝8月1日(土)
会場＝PLAT 主ホール
原作＝岡田淳
「こそあどの森の物語 はじまりの樹の神話」理論社刊
脚本・歌詞＝南圭一朗
演出＝山下純輝
作曲・編曲＝兼松衆

料金＝[全席指定]S席大人7,000円、S席小学生以下5,000円、A席大人5,000円、A席小学生以下4,000円



撮影：阿部章仁

立川志の輔独演会 2026

10/26 [月] 13:30 開演

古典、新作問わず落語に新しい息吹を吹き込む、大人気の立川志の輔独演会です。

会員先行＝WEB抽選のみ。

会員抽選＝7/30(木)～8/16(日)まで。

※申込方法詳細はホームページでご確認ください。

一般発売＝9/19(土)

会場＝PLAT 主ホール

出演＝立川志の輔

料金＝[全席指定]一般4,500円 ほか

※一般発売初日は、お一人様2枚までの枚数制限あり

立川志の輔



高校生と創る演劇

『わたしの星』

11/7 [土] 13:00 開演／18:00 開演

11/8 [日] 13:00 開演／17:00 開演

柴幸男の代表作をオーディションで選ばれた東三河の高校生とともに新たに上演。

会員先行＝9月12日(土)

一般発売＝9月19日(土)

会場＝PLAT アートスペース

作＝柴幸男

上演台本・演出＝藤田恭輔

出演＝オーディションで選ばれた高校生

料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]

一般3,000円、高校生以下1,000円 ほか



マームとジブシー × 公共ホール

4館共同制作

『under ground』

12/12 [土] 14:30 開演

12/13 [日] 14:30 開演

マームとジブシーと全国の公共ホール4館が共同し新作演劇を創り上げます。全国5箇所のリサーチと豊橋にて2週間の滞在制作を経てお贈りします。

会員先行＝10月10日(土)

一般発売＝10月24日(土)

会場＝PLAT アートスペース

作・演出＝藤田貴大

料金＝[全席指定]一般4,500円 ほか



藤田貴大



撮影：井上佐由紀

ライブポートとよはし

コバケンとその仲間たち

オーケストラ

特別演奏会

2/20 [土] 15:00 開演

プロ、アマ、障がいの有無を問わず、全ての人が輝いて活きる社会作りを目指すオーケストラ。「支え合い、共に生きる」ことで生まれる大きなエネルギーを、演奏を通して皆様にお届けします。

会員先行＝10月10日(土)

一般発売＝10月24日(土)

会場＝ライブポートとよはしコンサートホール

指揮＝小林研一郎

料金＝[全席指定]S席6,000円、A席3,500円 ほか

曲名＝『アイグ』より凱旋行進曲、ツィゴイネルワイゼン、ボレロ ほか

小林研一郎



One coin concert

ワンコインコンサート

若手音楽家育成事業

ブラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのコンサートです。500円でぜひたくなひとときをお過ごしください。

会場＝PLAT アートスペース

料金＝[全席自由・整理番号付]500円

上演時間＝60分

トリルト TILIT「気炎万丈

―燃え上がる音楽の夜―

8/21 [金] 19:00 開演

出演＝

松原理子[クラリネット]、

福井明日香[ピアノ]、

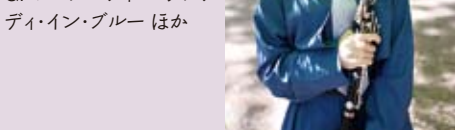
石丸柔瑠[パーカッション・ドラム]

演奏予定曲目＝

葉加瀬太郎:情熱大陸、

G. ガーシュウィン:ラブソ

ディ・イン・ブルー ほか



福井明日香[ピアノ]

石丸柔瑠[パーカッション・ドラム]



レゾナント Resonants

「シュトラウスに寄せて」

9/4 [金] 11:30 開演

出演＝伊藤澄香[ヴァイオリン]、河邊直生[ピアノ]

演奏予定曲目＝

ホルンゴルト:「から騒ぎ」より4つの小品 Op.11、R. シュトラウス:ヴァイオリン・ソナタ変ホ長調 Op.18 ほか

伊藤澄香[ヴァイオリン]

河邊直生[ピアノ]



©井村重人

Work shop

ワークショップ・レクチャー

プラット親子わくわくプログラム2026

じょこピ〜 こども劇場

ダンスワークショップ

7/29 [水] ①10:30 ~ 11:30 ②13:30 ~ 15:15

劇場の広い舞台で、思い切りカラダを動かして音楽と遊ぼう!

会場＝PLAT 主ホール舞台上

講師＝城俊彦(じょこピ〜)

演奏＝ミウラ1号

対象＝①年少児から年長児とその保護者 ②小学生

定員＝各回30名

参加費＝500円

申込方法＝①劇場ホームページの専用申込フォーム

②プラットチケットセンター電話

城俊彦



プラット親子わくわくプログラム2026

出張!ここにこ 工作スペシャル

「森のブレスレットを作ろう!」

7/30 [木] 9:30 ~ 12:30

布地で出来た葉っぱをベタベタ貼って、ブレスレットづくりをしてみよう。0歳からのコンサート同日開催!

会場＝PLAT 創造活動室D

主催＝こども未来館ここにこ

対象＝どなたでも ※未就学児は保護者同伴

参加費＝無料

申込＝事前申し込み不要、当日会場にて受付

プラット親子わくわくプログラム2026

夏休み!

劇場おしごと体験ツアー

8/19 [水] 13:00 ~ 15:00

劇場スタッフと一緒に舞台・照明・音響のお仕事を体験しながら、演劇を作ってみよう。

会場＝PLAT 主ホール

対象＝小学1年生～6年生



プラット親子わくわくプログラム2026

ワークショップ縁日

夏休み最後の週末は、いつもと違う日を劇場で過ごしてみよう!



えんげきとあをぼう

8/29 [土] 10:00 ~ 15:00

8/30 [日] 10:00 ~ 12:00

2日間でオリジナルの演劇づくり、最後に発表します。

会場＝PLAT 創造活動室A

講師＝とみやまあゆみ、笹尾彩華

対象＝小学生で2日間とも参加できる人

定員＝15名(先着順)

参加費＝無料

申込方法＝

①劇場ホームページの専用申込フォーム

②プラットチケットセンター電話

げきじょうであをぼう

8/30 [日] 12:30 ~ 15:30(予定)

劇場のいろんな部屋に、身体を使ったゲームや演劇づくりができるコーナーを用意しています。

会場＝PLAT 創造活動室A ほか

対象＝小学生以上

参加費＝無料

※申込方法など詳細は8月中旬より劇場ホームページにて公開します

お店をつくろう!

小さなまちづくりプロジェクト

8/28 [金] 13:00 ~ 18:00

8/29 [土] 10:00 ~ 18:00

8/30 [日] 10:00 ~ 17:00

アートスペースいっぱいにくどもたちが考えたまちを展示します。30日(日)15:00～表彰式を行います。

会場＝PLAT アートスペース

参加費＝無料(申込不要)

豊橋市民文化会館

柴幸男 演劇ワークショップ

10/24 [土] 13:30～15:00

『わたしの星』の作者で劇作家・演出家の柴幸男による演劇ワークショップです。

会場＝豊橋市民文化会館

講師＝柴幸男

対象＝中学生～20歳(演劇経験不問)

定員＝20名(先着順)

参加費＝500円

申込方法＝8月1日(土)10:00から

①劇場ホームページの専用申込フォーム

②参加申込書を窓口を持参、またはFAX(0532-55-8192)

Ticket center

チケットセンター

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

●オンライン

<https://toyohashi-at.jp>[24時間受付・要事前登録]

●電話・窓口

0532-39-3090[休館日を除く10:00～19:00]

発売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。

翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引で案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。

●料金＝U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額／高校生以下:1,000円

●購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱い。

●その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。

※一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



プラットフレンズ募集

入会金・年会費無料

●特典

1 公演情報をメールでご案内します。

2 インターネットチケット予約ができます。

3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。

※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

稲葉賀恵×オノマリコ

ワークショップ&ショーイング

参加者募集

市民参加者と共にワークショップを重ね、2027年1月に参加者全員によるショーイングを目指します。

オーディションワークショップ＝10月10日(土)、11日(日)

講師＝稲葉賀恵、オノマリコ

対象＝高校生以上

定員＝8名程度(選考)

参加費＝無料

申込方法＝9月26日(土)までに

①劇場ホームページの専用申込フォーム

②参加申込書を窓口を持参、または郵送。

市民と創造する演劇『赤鬼』舞台手話通訳付きバージョン 2026年3月7日[土]～8日[日]

作:野田秀樹 脚色・演出:樋口ミュ 出演:オーディションで選ばれた市民出演者／山崎皓司
振付:武田幹也 音楽協力:棚川寛子 手話監修:河合依子 舞台手話:加藤真紀子、高田美香、水野里香



撮影:伊藤華織

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペースで3月7日、「市民と創造する演劇『赤鬼』舞台手話通訳付きバージョン」を観て、驚いた。

PLAT は市民による創作に実績があるし、脚色・演出の樋口ミュさんはじめ、メインスタッフには優れたプロが並んでいる。いい舞台を観られるだろうという期待はあった。でも結果は、その何層倍も上をゆく出来栄えだった。これまで何度も観てきた『赤鬼』が、実に新鮮に、深く胸に染み入ってきた。知り合いのプランナーに声を掛けたら、「豊橋市民、すごいでしょ!」

市民スタッフも素晴らしいんです」と仲間を自慢する言葉が返ってきた。
『赤鬼』は野田秀樹さんが三十年前に書き、国内外で上演を重ねている戯曲だ。

海辺の村に、ある日、男が現れる。言葉の通じない異形の男を村人たちは「赤鬼」と呼んで、恐れ、攻撃する。村人から疎まれていた「あの女」だけが「赤鬼」と言葉を交わせるようになる。その兄「とんび」,「あの女」に惹かれている男「水銀(ミズカネ)」も「赤鬼」とかわりを深め、終盤、四人は小舟で海へ漕ぎ出す。

異質な者を、暴力的に排除する社会。現実の世界でより深刻になっているテーマをはらんだこの作品を、豊橋版は、的確に、そして、演劇を観る・聴く楽しみをたっぷり盛り込んで、上演した。

劇場に入ると、舞台奥に、おびただしい数の紙片が貼りつけられているのが目に飛び込んでくる。人々が「願かけ」をしたのか、何かを封じ込めているのか、それとも……。様々に想像をかきたてる。中央に傾斜のついた回り舞台が置かれ、その周りに白い小石が敷かれている。浜辺の風景を連想させ、どこか神聖な雰囲気もある。あとで聞いたら、小石の正体はやわらか

な梱包資材だった。それが硬い石に見えるのが舞台美術（柴田隆弘）のおもしろいところだ。

波の音が聞こえてくる。女性が立ち上がり、手と腕をしなやかに動かす。そのしぐさから「波」が伝わってくる。冒頭のこのシーンで、舞台手話通訳とは、意味を伝えると同時に、魅力ある身体表現だということが分かった。その後も三人の手話通訳者は劇の世界にとけこんで、時に村人の一人として演技をしながら、手で語る。自分が手話を解せないことを残念に思った。それほど、その動きは美しかった。

赤鬼役の山崎皓司さんは出演者の中で、ただ一人プロの俳優だ。シャープな動きが目を奪う。市民キャストもそれに拮抗する。主要な役を演じる伴美月さん、森川理文さん、北野黎さんのよく鍛えられた演技はもちろん、一人ひとり個性のある村人たちが生み出す共同体の「温かさ」と「酷薄さ」は、この舞台の成功のポイントになった。市民キャストは音楽でも物語を豊かに彩った。打楽器を中心にした音が複雑にからみ、うねり、観客を包み込んで、日常から遠いところへ連れて行った。

この公演ではもう一つ「市民と」の企画があった。「劇評」だ。

PLATは、観客により深く演劇に関わってもらうと「劇評講座」を開いている。私はその講師を務めており、課題作品の一つに『赤鬼』を選んだ。豊橋の劇場で作られた演劇を市民の言葉で論評することは意義深いし、こうした「劇評」を積み重ねてゆけば、創作とは違う方向から、劇場の歴史を作ることができると考えたからだ。

講座に参加した五人が「劇評」を書いてくれた。それは上演成果と肩を並べる、素晴らしいものだった。その一部を紹介する。

ある参加者は市民キャストの演技をくしみ出る素朴さや、知り合いに似るような既視感が、物語を他人事に感じさせない不思議な深みを与えていた」と評した。印象に残った場面としてく浜の女たちの井戸端会議を挙げ、く役者と通訳者が二人一組となり、計六人が横並びになった。化粧を直す OL のような振る舞いで、赤鬼を見たという噂を口々に話し出す。役者の仕草に合わせて、通訳者もセリフを訳しながら動いた。そのため、声を発しているのは三人だけでも、まるで六人全員がかしましくおしゃべりをしているように見える、コミカルなシーンに仕上がっていた。

別の参加者はく浜の人たちの集団での演技。同じ行動をしていても、表情や身体表現が豊かで、この人はたぶんこういう人だ。この人は……などと、いろいろな人を見ているのが楽しかった」と書いた。

白地に思い思いの模様を描いた村人たちの衣裳（長峰麻貴）に注目した評もあった。くデザインが素敵すぎた」く浜の生活を表す朴訥さとデザイン的な現代美が調和している

言葉を介したコミュニケーションの不全は、この劇の大きなポイントだ。ある人は、それを踏まえて、こう記した。

く開演前、近くの席にろう者の方々がいて、私には聞き慣れない発声や音量で会話を試みていた。恥ずかしながら私の身体は一瞬「居心地の悪さ」を感じてしまった。いけない、と頭で考える前に、身体が境界線を引いてしまう。その反射を自覚したとき、私はすでに赤鬼を迎える「浜」の側にいたのだと思う。異なる言語の気配が共同体をざわつかせる、その最初の瞬間を、私は客席で生きてしまった

として、こう続ける。
く開演してすぐ、言語より先に届くものがあった。波の表現である。波音とともにく波の手話、が視界へ入ったとき、身体の奥に沈んだ記憶に触れるような感触があった。言語を越えて共有される「揺れ」が、舞台から客席へ伝播する。ここで生み出されたのは翻訳ではなく、言葉より前の世界が立ち上がる予感だった

舞台上の演技などは、映像で、ある程度残すことができる。でも、あの時、客席を含む劇場で何が起きていたのか、舞台と観客との間にどんな交流が生まれていたのかを記録できるのは言葉、劇評だ。そのことが分かっていただけではないかと思う。

優れた言葉を紡ぎ出し、書き残してくれた講座参加者の皆さんにも、大きな拍手を贈りたい。

Sponsor
広告募集

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

Gallery 48
呉服町48 TEL.54-4848

有限会社 魚伊
電話52-5256

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
✉ y.qlo0170@gmail.com

看板広告 アラキスタディオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

なければつくる
ONOCOM 株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町宇原下35 電話45-5283 (代)

創業文政年間
伊藤 宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

60th
anniversary

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 静岡銀行 三井住友銀行
三井住友信託銀行 清水銀行 十六銀行
あいち銀行 名古屋銀行 三十三銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶席菓子専門店
若松園
御菓子司

気まぐれコンサート
事務局／0532-62-9259 (小川)

安心・安全な地下駐車場
パ-ク500
プラット主ホール・アトスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長兼院長 塩之谷 香・副院長 栗田和洋
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 伊あくわ

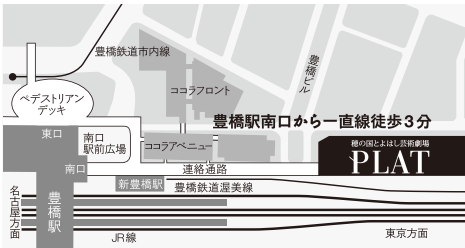
井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00～13:00 16:00～19:00
土 10:00～14:00 休診日＝水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO 9001 ISO 14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
サーラグループ



Support
特別賛助会員のご紹介

私たちは穂の国とよはし芸術劇場の活動を支援しています。

株式会社アイセロ
旭精機株式会社
株式会社イクモ
税理士法人イグラ会計
イノチオホールディングス株式会社
株式会社エクスラージ

大和田和恵
株式会社オリエント楽器
医療法人佳道会 藤城歯科医院
蒲郡信用金庫
川西塗装株式会社
河原崎 妙

株式会社三光製作所
三光精密工業株式会社
サーラエナジー株式会社
株式会社サーラコーポレーション
三遠機材株式会社
株式会社東雲座カンパニー
株式会社シュガーサウンド
大三紙業株式会社
戸田淳子

トヨタネ株式会社
トヨネ株式会社
株式会社豊橋印刷社
豊橋芸術文化事業サポート株式会社
豊橋ケーブルネットワーク株式会社
豊橋信用金庫
豊橋倉庫株式会社
豊橋鉄道株式会社
早川直宏

株式会社平松食品
藤城建設株式会社
学校法人藤ノ花学園
株式会社豊川堂
まちなかビブリオ倶楽部
松井商事株式会社
村田小児歯科センター
物語コーポレーション
山脇康宏
有楽製菓株式会社 豊橋夢工場
ゆーもあねっと
若松園
匿名会員4名
(五十音順)

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話＝0532-39-8810[代表](9:00～20:00)
開館＝9:00～22:00 休館日＝第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT